

導助言のあり方、集団の中での個人の指導、指導結果の評価などに努力している。

これらの点については、小・中・高等学校とも、今年度の教育課程研究集会において熱心に研究協議された。

第11節 学校図書館

1 概 況

文部省では、例年どおり、研究協議会を開催するとともに、学校図書館教職員に関する調査を、全国的規模で実施した。学校図書館の学校教育における位置を明確化し、特に、学校図書館に勤務する教職員の地位を、安定したものにした意向のようである。

教育課程の再改定の気運にあるとき、「組織化された教材センター」としての学校図書館のあり方について、積極的な提案が期待される。特に、読書指導の重要性が指摘されている今日、学校図書館の機能がじゅうぶんに発揮されるような措置が、切望されるのである。

しかし、学校図書館の施設・設備の充実度、各種資料の収集・整理・活用等の組織化の度合には、相当な地域差が見られる現状である。

いわゆる「学校司書」の公費化への要望は、本年も学校司書部会からの陳情書提出の形で、活発に展開されている。今年度より、司書手当の一部補助の名目で予算化されたが、その身分を保障し、生活の安定をはかるうえから、公費採用の職員とする施策が、いよいよ必要となってきたようである。

2 学校図書館教職員に関する調査

学校図書館に関する事務上の参考資料として、文部省は、標記の調査を関係機関に依頼した。本県における調査結果の概要を示すと、次のとおりである。

なお、調査年月日は昭和40年7月1日現在であり、調査対象は、小・中・高・盲・ろう・養護の1,083校である。

(1) 司書教諭資格所有者数	56人
(2) 事務職員を置いている学校数	209校
(3) 学校図書館関係事務職員総数	212人
① 上記職員の採用種別	
ア. 公費採用	71人
イ. 私費採用	141人
② 上記職員の有する資格について	
ア. 司書教諭資格所有者	4人
イ. 司書資格所有者	3人
ウ. 司書補資格所有者	13人
エ. 無資格者	192人

3 司書の公費採用を要望する陳情書

県立高校の司書研修会（副会長 池下泰弘）および県学校図書館協議会の司書部会（部長 草野美紗子）

より、代表を通じて、次のような趣旨の陳情書が、県教育委員会その他関係機関に提出された。

陳情書の要旨

本年度から県内3校に司書手当の一部として補助金を配布いただきましたことは、司書の必要性和浮草のような身分の不安定さをご理解くださいました結果と、わたくしども感謝と喜びでいっぱいでございます。

司書は高度の専門技術を必要とし、生徒の読書相談に応ずるだけの教養を身につけねばならず、しかも、他の職員より長時間の勤務を要求されております。にもかかわらず、司書は身分が不安定であり、経済的にも恵まれないため、転職する者が続出している現状でございます。

以上の実情をおくみとりのうえ、一日も早く県費をもってご採用くださいますよう、今後ともいっそうのご配慮を、心よりお願い申し上げます。

4 文部省主催の学校図書館研究協議会

昭和40年12月9日～10日の2日間、文部省と国立教育会館とを会場として開かれた標記協議会への、本県よりの参加者名は次のとおりである。

- 小学校部会
原町市立高平小学校教頭 田原口保貞
- 中学校部会
岩瀬村立岩瀬中学校教諭 武藤 清
県教育委員会 指導主事 長谷川磐雄
- 高等学校部会
県立福島高等学校教諭 金木 敏夫

5 第16回福島県学校図書館研究会野田大会

- 研究主題
「よい本をたくさん読ませ、その読書経験を学習活動あるいは人格形成に役だたせるためには、学校図書館はどのようにあるべきか」
- 主催
福島県学校図書館協議会 吾妻町教育委員会
信夫学校図書館研究会 県北学校図書館研究会
- 後援
福島県教育委員会 信夫地方各教育委員会
県北小中学校長会 県北高校長連絡協議会
- 期日 昭和40年10月1日～2日
- 会場 吾妻町立野田小学校、同中学校
- 講師 東京学芸大学助教授 深川恒喜
演題 「読書指導の新展開」
県教育委員会指導主事 長谷川磐雄

6 そ の 他

司書部会と司書研修会が、その実務能力を高めるため、7月下旬、12月上旬に、それぞれ研修会を開いたことは、研修意欲の盛んなことを示しており、注目に値する。